

# 淡路島において、コウノトリさん

辰岡輝音（洲本高校総合探究類型）

## はじめに

2022年の夏、南あわじ市の祖母の家に訪れた際、家の付近の電柱にコウノトリがとまっているのを発見しコウノトリの個体数を調べた時、淡路島におけるコウノトリの個体数が大変少ないことに気づき、その原因はなぜなのか疑問に思った。また、淡路島以外のコウノトリ飛来地についてどのような環境であるのか興味を持った。そこから淡路島との共通点を調べだし、淡路島において人とコウノトリが共存できる環境の提案を目的として探究を始めた。

## 方法

コウノトリの飛来についてはQGISを用い調査した。QGISとは、無料で使えるオープンソースのGISソフトである。GISは、地理情報システム (Geographic Information System) の略で、空間情報をコンピュータ上で作成・表示等ができるシステムのことであり、現在は科学調査でも広く用いられている[1]。本研究ではQGISを用いてコウノトリの飛来ルートや生息地域を可視化し、問題点を明らかにしていった。また、日本コウノトリの会、東京大学及び中央大学協働プロジェクトとして、「コウノトリ市民科学」(市民参加によるコウノトリのモニタリング)を行っている[2]。コウノトリ市民科学のWebサイトなどを利用して、過去2年間の最新位置情報を調べた(図1)。これらによって飛来地の共通点などをコウノトリがよく訪れる地域である豊岡市、加東市、徳島市の三つの地域のデータを比較し、分析した。

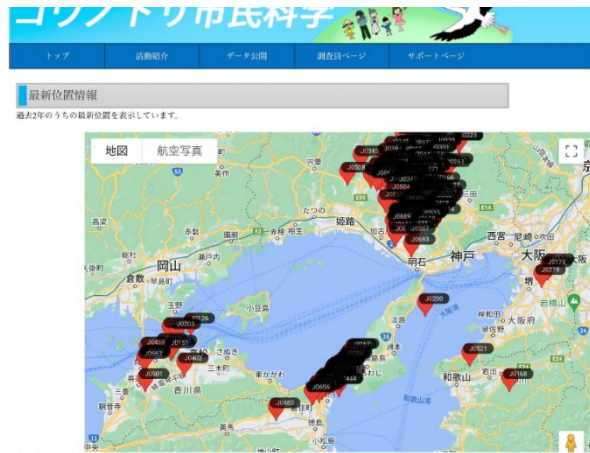


図1 コウノトリの2年間の位置情報

## 結果

コウノトリの飛来地の特徴についてまとめると次の4点である。

- (1) 起伏の激しいような土地での目撃情報が多いことから大きな山に囲まれた土地ではコウノトリが出現しやすい(図2)
- (2) 海にすこし近い地域に出現しやすい
- (3) 盆地のような地形に多い、および
- (4) ため池や、ため池跡地に多い。これらの結果から淡路島は地形的にも他のコウノトリの飛来地と比較して、似ている点があるため他の飛来地と比較しても、ひけを取らないのではないかと考えた。

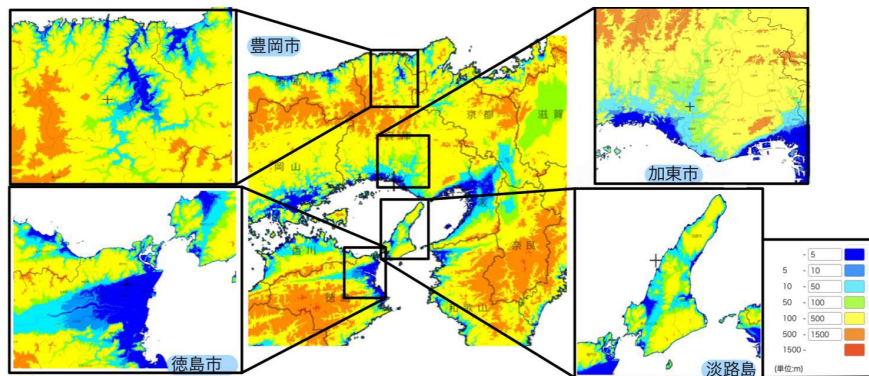


図2 淡路および周辺地域の高低図

## 考察

### ① トビの影響

淡路島が他の地域と比較し劣る環境ではないのに、飛来数が少ない原因の一つとしてトビによる影響を考えた。淡路島にはトビの数が多く、それがコウノトリの飛来数を減少させているのではないかという話をコウノトリ郷公園の職員の方に尋ねるとコウノトリは鳥の中でも強く、あまり脅威にはならないが、卵やヒナなどは狙われるかもしれないと、回答をいただきました。そのため、淡路島内でのコウノトリ繁殖が難しいため、あまり島内で見られないのではないかと考えた。

### ② 具体的な淡路島の土地の提案

現在、コウノトリが飛来している土地の特徴として、水量が減ったため池など、水が少なくなった湿地状の環境である。この観点に基づき淡路島内で最適な場所を探したところ南あわじ市志知が最適であると考えた。その理由としては図2のコウノトリがよく飛来する場所と図3にある志知の地域を土地の高低差から見た時、志知は盆地のような地形であり、海に比較的近い位置にあるなどの類似点があり、ため池の数が多いため餌の確保ができる。ということである。またこれまでに数回その地域にコウノトリが飛来したこともあるため、淡路島の中で最適な土地であると考えた。

また、淡路島にコウノトリを呼び込むためには、コウノトリのための環境整備を市や県で市民と協力してすることが大切である。豊岡市のコウノトリ育む米農法などを参考とした、農業面での意識を一変し、エサ場を増やすなどさまざまなことをしていかなければならない。そのために自分たちにできることはないかより解決策を考えていく。

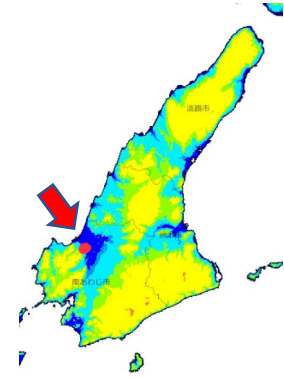


図3 南あわじ志知の位置

参考サイト [1] QGIS <https://www.qgis.org/ja/site/about/index.html#>

[2] コウノトリ市民科学 <https://stork.diasjp.net/>